

# 「Re-ナース」プランの取組みについて

## 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業

○ 下左近寿美<sup>1)</sup>、松田美智代<sup>1)</sup>、鈴木亜矢子<sup>1)</sup>、  
武村雪絵<sup>1)</sup>、榮木実枝<sup>1)</sup>

1) 東京大学医学部附属病院 看護部

### 1. 【背景】

看護師資格を有しながら、現在働いていない看護師（潜在看護師）は約 55 万人と推定される。日本看護協会の 2006 年調査<sup>1)</sup> に回答した潜在看護師の平均年齢は 38.7 歳で、結婚や出産を機に離職した者が多く、半数は末子が 6 歳未満であった。77.6%は再就業を望み、72.1%が事前研修（特に看護技術、最新医療知識、IT 関連知識）を希望していた。同調査では全国の 82.3%の施設が潜在看護師の雇用を望んでいたが、38.1%は中途採用者対象の研修を有していなかった。

2006 年度より、人材派遣会社（株）スーパーナース（以下（株）スーパーナース）との共同研究として、潜在看護師の再就業支援プログラムを検討していたところ、今春の文部科学省による「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」として委託を受けることができ、実際の研修を展開できる運びとなった。なお、文部科学省からのこの委託事業は山口大学との共同申請にて認定を受けた。

### 2. 【本事業の目的】

7:1 看護職員配置を目指す病院だけでなく、様々な施設での看護師定員確保が困難を極めている。潜在看護師の 2%の再就職が実現すれば、およそ 1 万人の看護師確保が期待できる。潜在看護師は再就業前の実技研修を希望しているが、その要望に施設側が応えられていない現状を前述の日本看護協会の調査からも伺い知ることができる。

本研修は当院への再就業を希望する潜在看護師のみを対象にしたものではなく、潜在看護師のニーズに応え、本研修を修了後にいずれかの施設で再就業を果たして貰いたいという社会貢献を目指すものである。

### 3. 【事業計画】

本研修は山口大学との共同申請により、文部科学省からの委託事業として採用され、非常に安価な価格での研修の提供が可能となった。本研修を“「Re-ナース」プラン”と称することと決定し、看護師経験年数や離職期間により 5 日間コースと 10 日間コースを設定した。コースの詳細については（株）スーパーナースのホームページに掲載し、広く研修者を募集した。コースの選択に関しては、（株）スーパーナースが研修希望者とのカウンセリングを行い決定した。

研修内容は 5 日間コースでは「医療界・看護界の動向」に始まり、「感染対策」「安全対策」「薬剤の知識」「ストレスマネジメント」「個人情報保護」などの講義やグループワーク、「注射・採血・静脈穿刺」「医療用ポンプの使用法」「診療端末」「救命時の対応」などの実技研修の後、最終日には一般病棟の見学を含む。

10 日間コースは上記の 5 日間コースに加えて、「心電図」「糖尿病の知識」「褥瘡予防」「トランスファー」「退院支援」等を講義、実技を通して学んだ後、ICU の見学を行う。ICU においては、単に施設見学だけでなく重症患者のケアの見学も含んでいる。終盤では各プログラムの研修成果を確認するために、シミュレーションによる看護実践練習にて、総合的な知識・技術の確認を行う。

これらの講義、実技研修には役割師長や専門看護師、認定看護師だけではなく、医師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など、各分野の専門家が講師として参加した。本研修の中には多くの実技研修を含んでおり、3、4 人毎に担当者（指導者）を置いている。研修者へ十分な指導を行うためにも、それぞれのコースを 10 名までと人数制限を設け募集した。

規定以上の成績で修了した者に対しては、各コースの最終日には病院長名での修了証を発行し、コースの修了を証明した。

再就業については、研修期間中に（株）スーパーナースによる個別面談「就職カウンセリング」が開催され、研修後も引き続き就職先の斡旋を行っている。

### 4. 【途中経過報告】

第 1 期（平成 19 年 9 月開催）には、募集が直前であったにもかかわらず、5 日間コース 5 名、10 日間コース 9 名（当初 10 名の申し込みがあったが、家庭の事情にて当日になりキャンセルとなった）の参加があった。研修者の背景は、年齢は 26 歳～58 歳（平均年齢 35.6 歳）、就業期間は 1 年～12 年（平均就業期間 6 年）、離職期間は 3 ヶ月～30 年以上（平均離職期間 5 年）であった。

第 1 期の最終日に行われたカンファレンスにおいて、研修者から以前よりも前向きな気持ちが強くなり、全員が「もう一度看護師に戻りたい」との気持ちを持たたとの感想が聞かれた。5 日間、又は 10 日間を共にした仲間同士のネットワークもでき、今後それぞれが

再就業を果たすにあたり、刺激し合い、励まし合える心強い仲間ができたことも研修者にとっては大きな収穫だったと考えられる。また毎日決められた時間に研修に出席する事が、家庭と仕事の両立に向けての訓練となったことも、もう一つの副産物として挙げられる。

第 1 期終了後の動向調査では、11 月下旬の時点で、14 名の受講者のうち常勤での再就業を果たした者が 3 名、派遣職員として再就業した者が 3 名、その他再就業に向けて活動している者（面接予定がある者など）や 2008 年度からの就職予定者は 5 名いた。14 名のうち 3 名は未稼働であるが、11 名（79%）の受講者が再就業に向けて行動した結果となった。再就業を果たせていない 3 名については、再就業の意志があるものの、勤務条件が本人のニーズと合致せず（夜勤ができない、土日の就業ができない、自宅周辺を希望するなど）、再就業の実現には知識・技術の再確認だけでなく、家庭の事情にも大きく左右されることが伺えた。しかし、研修後の成果を最大限に活用する為にも、研修後の速やかな再就業が望ましいと考える。再就業を果たした研修者に対しては、継続的にアンケート調査を行い、研修内容や研修方法の再検討を行う予定である。同時に協力が得られた場合は、就業先へも本研修を受講した者の就職時の知識・技術の習得状況についての評価に関する調査もを行い、研修内容の再検討に反映させていく予定である。

なお、第 2 期（平成 19 年 12 月開催）の受講者は、5 日間コース 2 名、10 日間コース 10 名であった。定員超過により第 2 期への受講がかなわなかったため、既に第 3 期の受講の予約を入れている者もあり、10 日間コースへの参加希望者が多いことから意欲の高さが伺える。第 2 期の研修者の背景は、年齢は 24 歳～50 歳（平均年齢 35.6 歳）、就業期間は 4 ヶ月～15 年（平均就業期間 4.3 年）、離職期間は 8 ヶ月～20 年（平均離職期間 6.4 年）であった。

## 5. 【今後の計画】

「Re-ナース」プランの現在の方法では受講可能人数に制限があるため、受講者の拡大についての方法の一つとして、E-learning システムの導入を検討している。「Re-ナース」プランに登録した潜在看護師が自宅等において自己学習を進めることにより、更に多くの潜在看護師に学習機会を提供できると考える。今後山口大学において本事業の展開も予定しているが、この E-learning システムにより研修者に提供できる学習内容の統一化を図ることも可能となる。

E-learning システムは単なる講義の代用ではなく、必要に応じてアニメーションや動画などを駆使し、学習内容の充実化を目指す。また技術習得を要する内容については、主に動画による情報を提供することを検討している。

しかし E-learning システムによる自己学習のみでは、学習意欲の継続が困難であることも予測されるため、web 上で研修者個人の学習進捗状況を確認し、必要に応じて支援を行うこ

とが重要となる。また実技を伴う研修は、web 上での動画による事前学習の後、スクリーング同様、当院において直接研修担当者からの技術確認を受ける機会を提供する事もプログラムに含める予定である。E-learning システムでは個人成績管理も可能である為、スクリーングの際に web 上での学習状況を本人へフィードバックし支援することも検討している。

E-learning システムとスクリーングとの併用により、研修地域の拡大、1 回あたりの受講者数の拡大、研修提供内容の統一化を図ることが今後の方向性として示唆された。

## 6. 【まとめ】

本研修を受講した潜在看護師は、再就業への意欲が高く研修にも非常に熱心に取り組んでいた。しかしながら、実際に再就職を果たすには本人の意思だけでは解決できない問題も生じている現状も明らかとなった。しかしまだ 1 回のみではあるものの、研修修了後の動向調査により、79%が再就業を果たせたという結果を得られたことは大きな成果と考えられる。

第 3 期の「Re-ナース」プランは 2008 年 2 月開催予定であり、今後 2009 年度までは文部科学省の委託事業として、年間 4 回の「Re-ナース」プランの実施を計画している。その後も当院の事業の一環として継続して行きたいと考えている。潜在看護師の再就業への思いを後押しし、再就業の実現に向けて本人が行動を起せるだけの知識・技術の提供を行うこと、またその意欲を継続してもらうことが、今後我々に課せられた課題である。

## 【参考文献】

- (1) 日本看護協会専門職支援・中央ナースセンター事業部：平成 18 年度潜在ならびに定年退職看護職員の就業に関する意向調査報告書、2007.